

平成23年度 学校自己評価一覧シート

教育目標  
 ①発展性のある学力と高い知性を身に付ける  
 ②正しい判断力と豊かな情操を身に付ける  
 ③強い体力と逞しい気力を身に付ける

本年度の重点目標  
 ① 品位ある西高生  
 ・時間厳守 ・挨拶励行 ・人権意識の発揚 ・環境美化  
 ② 智をみがく西高生  
 ・高い志と強い意志・意欲の涵養 ・確かな学力の育成 ・授業・補習等への積極的な取組  
 ③ 逞しい西高生  
 ・文武両道 ・学校行事への積極的な参加と取組 ・疾病・傷害の未然防止 ・教育相談の有効活用

※達成度は4段階で評価する。  
 4：大変よくできた。  
 3：まあまあできた。  
 2：あまりできなかった。  
 1：全くできなかった。

愛知県立一宮西高等学校  
 平成23年9月

項目	本年度の重点目標	具体的方策(名詞形で)	評価規準・基準	中間評価	達成度	中間評価修正点
学校行事 (総務部) (生徒指導部)	式典や集会を通して品位・品格を高める	・式典に相応しい身だしなみの定着	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	生徒の97.1%、職員の92.2%が肯定的評価をしている。「指導」は意識されているが、指導されてはじめて身だしなみを整えたり、少ししか直さない生徒が見受けられる。式典における「ふさわしさ」が理解されていない。	3	啓発プリントに身だしなみについて記載し、意識の向上に努めたい。
		・校歌斉唱を通じた西高生としての自覚の向上	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	職員の82.4%が肯定的評価であるのに対して生徒の38.5%しか肯定的評価をしていない。6割以上の生徒が職員の「指導」を意識していない。	2	校歌についての啓発プリントを全員に配布して意識の向上に努めたい。
	P T Aとの連携の推進	・情報交換の充実	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	中間評価は実施せず		
学習指導 (教務部) (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	学習意欲の喚起	・3年間を見通した教科シラバスの積極的活用	4 シラバスによって家庭学習が活発になり、学習効率が向上した(生徒・教員がともに効用を認めた) 3 1・2年次のシラバスを活用し、生徒に学習活動への展望を持たせることができた(50%以上の生徒が評価した) 2 1・2年次のシラバスを活用し、生徒に学習活動への展望を持たせることができた(50%未満の生徒が評価した) 1 シラバスの活用について教科会で協議したことがなく、生徒もほとんどみていない	中間評価は実施せず		
		・分かりやすい授業の研究	4 課題を明確にした授業を実施し、授業改善に取り組んだ 3 教授法の研究協議をふまえ、多くの教員が授業展開に工夫を加えた 2 現在の教授法の問題点を教科会で研究協議した 1 授業のあり方について教科会での研究協議がほとんどなかった	中間評価は実施せず		
	・発展性のある学力の育成	発展性のある学力を育成するために、教科指導や学年運営及び学級運営において 4 充分に取り組むことができた 3 ある程度取り組むことができた 2 あまり取り組むことができなかった 1 全く取り組むことができなかった	中間評価は実施せず			
生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)	安心安全な学校生活につながる積極的な生徒指導	・生徒の自己防衛意識向上に向けた積極的な啓発活動の展開	指導全般と、生徒の意識向上の様子について 4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	生徒全体においては、「大変そう思う」「まあそう思う」が94.5%に達しており、概ね肯定的な意識を持っている。教員においても「大変そう思う」「まあそう思う」が98.3%と概ね同様な意識を持っている。	3	特になし
		・規範意識と心豊かな人間性の涵養	4 8割以上の肯定的評価が得られた 3 6割以上の肯定的評価が得られた 2 4割以上の肯定的評価が得られた 1 肯定的評価が4割に満たなかった	中間評価は実施せず		
	・交通安全指導の充実	4 年間の交通事故件数が10件未満となった。 3 年間の交通事故件数が15件未満となった。 2 年間の交通事故件数が20件未満となった。 1 年間の交通事故件数が20件以上となった。	中間評価は行っていないが、1学期末現在交通事故の合計が10件に上っている。2学期以降危機意識を持って指導をしていく必要がある。	2	交通事故減少のために、啓発活動をより一層強化する。特に自転車の傘さし運転や、ヘッドフォンを聞きながらの運転を阻止したい。	
進路指導 (進路指導部) (各学年会)	進路希望の実現	・進路情報の整理、検討と、ニーズに応えた進路情報の提供	4 8割以上の肯定的評価が得られた。 3 6割以上の肯定的評価が得られた。 2 4割以上の肯定的評価が得られた。 1 肯定的評価が4割に満たなかった。	各学年とも8割以上の肯定的評価である。しかし「大変そう思う」の割合が少なめ(生徒評価で3割)であることは今後の検討課題である。	3	今後も機会をとらえて積極的に情報発信に努めていく。
		・補習等の課外学習指導の充実	4 8割以上の肯定的評価が得られた。 3 6割以上の肯定的評価が得られた。 2 4割以上の肯定的評価が得られた。 1 肯定的評価が4割に満たなかった。	例年は学年が上がるにつれて肯定的評価の割合が増加する傾向であったが、今年は1～3年とも95%を超える肯定的評価であった。先生方の熱心な指導と、それに応える生徒の姿勢が合致していると言える。	4	特になし
安全指導 (保健部) (各学年会)	救急救命への取り組みと校内美化の推進	・心肺蘇生法、AED操作技術の習得	心肺蘇生法・AEDの講習会の参加を通して操作技術を習得できたか 4 8割以上の生徒が習得できた 3 6割以上の生徒が習得できた 2 4割以上の生徒が習得できた 1 習得できたのは4割未満であった	講習会に参加した生徒56名中、44名(78.6%)の生徒が十分に技術を習得できたと回答。教職員参加者29名(77.1%回答27名)内、14名(51.9%)がスムーズに実施できたと回答している。生徒、職員ともに心肺蘇生法の手順を忘れないように毎年確認することの大切さを自由記述欄に記載していた。	3	心肺蘇生法はここ数年、手順が簡素化している。緊急時にその場にいる者が実施できるよう訓練を繰り返すことが大切であるので、今後も講習会を実施したい。
		・生活環境と清掃に対する生徒の意識高揚	4 8割以上の生徒が素早く移動し清掃ができた 3 6割以上の生徒が素早く移動し清掃ができた 2 4割以上の生徒が素早く移動し清掃ができた 1 素早く移動し清掃ができた生徒が4割未満であった	音楽を聞いて素早く清掃に取り組めたかの質問に約7割の生徒が「大変できた」「まあできた」と回答している。しかし3割の生徒が取り組めていない。	3	清掃時間は、学校全体で環境美化に取り組もうとする姿勢や意識の向上に努めたい。
部活動 生徒会行事 (各学年会)	部活動成果の向上と学校行事の充実・発展	・日々の部活動の練習の充実	毎日の練習が 4 充実していた。 3 ある程度充実していた。 2 あまり充実していなかった。 1 充実していなかった。	中間評価実施せず		
		・委員会活動の活性化と生徒の主体的な参加	学校行事に 4 積極的に参加できた。 3 ある程度積極的に参加できた。 2 あまり積極的に参加できなかった。 1 積極的に参加できなかった。	中間評価実施せず		
読書指導 (図書部) (各教科会)	積極的な図書館利用の推進	・生徒の読書促進	図書の貸し出しが 4 増加した。 3 ほぼ同程度であった。 2 やや減少した。 1 減少した。	今年度4月から6月までの貸出冊数は811冊であった。一昨年の891冊、昨年の886冊からさらに減少した。来館者数は伸びているが、本の貸し出しには結びついていない。	2	生徒が興味・関心を持てる図書の選定、紹介、配架方法など、さらに工夫していきたい。
		・利用しやすい図書館への工夫	利用しやすい図書館への工夫が 4 十分にできた。 3 ある程度できた。 2 あまりできなかった。 1 不十分だった。	中間評価実施せず		
	・図書委員による行事活動の充実	行事活動が 4 充実していた。 3 ある程度充実していた。 2 あまり充実していなかった。 1 充実していなかった。	今年度はじめて図書委員となった生徒ばかりではあったが、短い時間の中で、テーマを設定し、資料を持ち寄り、工夫した展示ができた。	3	特になし	